

東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第3学年 保健体育科学習指導案		授業者	谷 百合香
		授業学級	3年B組（男子18名、女子17名）
授業テーマ	SDGsから「LGBTQ+」「SOGI」を考えよう ～自分の「性」を大切に、相手の「性」も考える～		

1. 本時の目標

LGBTQ+やSOGIといった多様な「性」を知った上で自分の「性」と向き合い、誰もがよりよく生きる社会実現に向けて考え、意思決定・行動することができる。

2. 本時の位置づけ

1年次で扱った「生殖に関わる機能の成熟」との関連から、「異性への関心」といった「性」に関する授業を行ってきた。しかし、必ずしも「異性」に対してだけではないといったLGBTQ+や多様な性についても考える必要がある。思春期の時期は、性への関心が高まるとともに、自己の認識の深まり、自己形成がなされる時期でもあり、さらに、自己の性指向に気づくのも13歳頃の思春期が最も多いと言われている。しかし、LGBTQ+の児童生徒は、いじめ・不登校・自殺等様々なリスクを抱えており、自尊心や自己否定にもつながってくると言われているが、学校という環境ではそのような児童生徒への認識が低く、理解・対応が進んでいないのが現状である。また、LGBTQ+に対して、肯定的な態度を形成するためには、葛西らは『LGBTQ+についての漠としたイメージではなく、1人の人間として認識する「LGBTQ+の可視化」、当事者の体験談を聞いたり、友人になったりする「当事者との親密化」、自身にもマイノリティの側面を感じる「マイノリティ共感」という3つの体験が促進作用を促す』としている。知識だけを与えるのではなく、自分にもマイノリティの側面があるという「自分ごと」という考えや、相手の立場に立つ、自分に置き換えて考える「メタ」認知を促す学習となることも求められる。

さらに、「持続可能な開発目標＝SDGs」の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、「だれひとり取り残さない」という考え方に関連させて「SOGI（ソジ）」という、多数派、少数派に関係

なく、すべての人がそれぞれ持っている性的指向や性別に関する認識を意味する言葉によって、すべての人に関係する「性」について考えることを目指したい。

また、教科連携や教科横断的な学びという観点や上記のLGBTQ+への肯定的態度を促す3つの観点から、外部団体との連携をはかり「保健」だけに留まらず道徳として取り上げることで、学びを深めることができるか可能性を探る。

3. 本時の概要

(1) 本時の流れ

【第1時】1年次の振り返りを踏まえ、「多様性」や「自然体」について考え、「性」の自然体について考えたとき「性別違和」を感じる人がいることを知り、そのような人が学校生活でどのような生きづらさを感じているかを考える。

【第2時】第1時の続きとなる、学校生活で互いに居心地がよくなるためにできることを考える。「カミングアウト」必要性について、メリット・デメリットから考えたとき、自分がどのように行動すべきか考える。「アウティング」事件について知り、やってはならない行為であるのはなぜか考えある。「Ally」という立場の人を知ること、自分自身がこれらの授業からどのようなことを感じ、考えたかを振り返る。

(2) 情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか

「性」の多様性について、情報に惑わされず知識を持ち、社会における問題について自分事として捉え、問題発見・解決することで自分の考えを形成し、行動変容につなげる。

-2 体系表に照らしてみると

思考力・判断力・表現力の問題解決・探求における情報を活用する力、問題を発見解決し、自分の考えを形成していく力と捉える。

4. 本時の展開

【第1時】

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉</p> <p>⑩SDG sの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」について知る。</p> <p>①1年次（3学期）の「多様性・個人差・個性」から「LGBT」について学んだことを振り返る。</p> <p>②「性」の5つの要素を確認する。 「制度の性」、「身体の性」、「社会の性」（性役割）、「性的指向」（好きになる性）、「性自認」（こころの性）</p>	<p>○SDG sの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」と関連させ、「LGBTQ+」も含めた多様な性について考えることが、「だれひとり取り残さない」ということになることを理解する。</p> <p>○「社会の性」では職業や言葉（漢字）に潜むジェンダーについて考えさせる。</p>
<p>〈2. 展開〉</p> <p>③自然体とは何か、「性」の自然体とは何かを考える。</p> <p>④「SOGI」について知る。</p> <p>⑤LGBTQ+といった「性的マイノリティ」の人はいるのか？</p> <p>⑥グラフから、なぜLGBTQ+であることを「伝えない」「伝えた」のかを考える。</p> <p>⑦学校生活において、LGBTQ+の人が生活しづらいのはどのようなときか考える。</p>	<p>○1年次に行った授業の「多様性」「個人差・個性」「自然体」「ふつう」といったKW（キーワード）から学んだことを思い出させる。</p> <p>○SDG sの「だれひとり取り残さない」考え方から、男女という性の捉え方だけでなく、「SOGI」という誰もがもっている「性」のあり方を考える言葉であることを理解する。</p> <p>○学校生活において、LGBTQ+の人が生活しづらい場面を自分事として捉えて考え、発表する。</p>
<p>〈3. まとめ〉</p> <p>1年次の授業後に「考えたこと」について紹介する。</p>	<p>○カミングアウトや ALLY について触れている文章を紹介することで、次回の授業につなげる。</p>

【第2時】

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉</p> <p>⑩ストーンウォールの反乱について知る</p> <p>①前回の続きである「学校生活で互いが少しでも居心地がよいと思えるために何ができるだろう…？」について、発表する。</p>	<p>○この事件から6月がPRIDE月間としてLGBTQ+のパレードなどが行われるようになったことを知る。</p> <p>○LGBTQ+の人が学校生活において「生活しづらい」と感じる点について挙げた点から、居心地がよいためにできる工夫を考えさせる。</p>
<p>〈2. 展開〉</p> <p>②『「カミングアウト」しないといけないの?』について、自分だったらカミングアウトするかどうか、またカミングアウトする・しない場合の相手について考える。</p> <p>③もし「カミングアウト」をされたとしたら、どんな反応だと嬉しい？または辛い？について考え、ロールプレイを行う。</p> <p>④「カミングアウト」のメリット・デメリットについて考える。</p> <p>⑤一橋大学の「アウトティング」事件を確認する。</p>	<p>○「嬉しい」「辛い」反応について、感じたことや考えたことを発表し、想いや考えを共有する。</p> <p>○「カミングアウト」のメリット・デメリットを考えることで、「カミングアウト」される側の受け止め方の重要性を考えさせる。</p> <p>○アウトティング事件について、遺族のインタビュー記事を読み、これまでに考えたことを踏まえて、自分の考えを振り返らせる。</p>
<p>〈3. まとめ〉</p> <p>⑥「ALLY」について知る。</p>	<p>○ALLYという立場の人を知ることで、自分の考えや立場をどのように捉えるか考えさせる。</p>